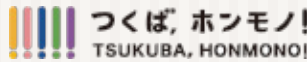




フジキン事業所フロアで



株式会社フジキン 万博記念つくば先端事業所
革新実戦技術部 実戦設計管理課

Tomoko Watanabe 渡辺 知子 さん

阿見町生まれ。県立土浦工業高校建築科卒業後、住宅建築会社に入社。その後、縫製会社での洋服製造や測量会社を経て派遣社員としてフジキンで勤務。一昨年から正社員として設計管理課で知財管理や図面管理の業務を行う。

つくばで輝く
女性研究者



開発部門スタッフとの会議

「特殊バルブを極める」パソコンや携帯電話などに使われる半導体を製造する超精密バルブ機器の設計管理を担当。技術開発部門や製造部門との連携による設計や知財管理など、特殊バルブ機器製造を支える幅広い業務を行う。「開発者が考えた技術の特許出願するための図面作成をする時は、技術者や社内の弁理士(知的財産の専門家)と打ち合わせをしながら進めています」。フジキンは、1976年にロケット用バルブ機器を初めて国産化したメーカーで、テレビドラマ『下町ロケット』のロケ地として撮影に協力したことも知られている。現在では石油化学や

ものづくりに憧れ
先端技術を支える



業務メンバーとの会食

幼少から物をつくることに興味があり、土浦工業高校建築科に進学。「最初から技術系に関心があったので、普通科という選択肢はなかった。情報や建築には女子が多かったのですが、違和感なく楽しい学生生活を送りました。卒業後は建築会社に就職し、住宅の基礎となる土台担当の技

「ものづくりへの憧れ」幼少から物をつくることに興味があり、土浦工業高校建築科に進学。「最初から技術系に関心があったので、普通科という選択肢はなかった。情報や建築には女子が多かったのですが、違和感なく楽しい学生生活を送りました。卒業後は建築会社に就職し、住宅の基礎となる土台担当の技

術職として勤務。その後、縫製会社での洋服製造や測量会社を経て、フジキンの派遣社員として図面作成などの業務を行った。その堅実な実績が認められ、2016年からは正社員として管理業務に就いた。「いろいろな技術職を経験しましたが、特殊バルブの図面をCADで作るのが楽しくて、天職だと感じました。これからは幅広い知識を身に付けてスキルアップし、知的財産管理で先端技術の開発を支えていきたいと考えています」と目を輝かせる。

つくばの暮らし

現在は同事業所の技術部門に勤務する夫と愛犬「プリム」と共につくばで暮らす。「夫婦そろってロック音楽が好きで、夫と一緒に野外音楽フェスにも参加。飲み会やバーベキューパーティーなど職場の交流も盛んで、楽しく充実した日々を過ごしています。4月は近くの万博記念公園の桜がきれいなのでお花見が楽しみです」と笑顔。